

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書

団体名	自主学童保育ささのはクラブ
取組の名称	地域に根差した学童保育から共助の地域コミュニティを作る
実施場所	川崎市宮前区西野川 3-17-41
対象地域	川崎市宮前区・高津区野川地域
対象地域の特色・課題	<p>野川地域は、神奈川の昔話に残っている歴史のある地域で、畑作中心の農家が代々続いてきた地域です。そこに約 50 年前住宅地ができ、公営の団地やマンションが次々でき新住民が急増しました。さらに、最近 20 年位で、宅地開発が進み畑や山林が開発され、住宅が急増しています。</p> <p>新住民は、若い世代で核家族が大多数で、住宅購入の資金などの必要から共働き家庭が多いです。そのため、保育園や学齢期の学童保育の需要が多い地域です。</p> <p>地域のこどもが置かれている状況は経済的な課題の他、野外でみんな遊ぶ機会が減った事によるこども同士の関わりの希薄化や、日中は職場に行き近隣の人と関わる機会がなく大人の孤立化が進んでいます。地域の大人が力と知恵を出し合いこども達みんなに関わる活動をすることで、こども達が大人を信頼し、大人になる事に希望が持てるようになる活動が必要です。こどもと大人が密接に関われる、自主学童保育づくり活動を、地域の中で生かしていきたいと考えています。</p>
取組の趣旨・目的	<p>I. 地域に根差した学童保育として、次の目的で学童保育事業を運営しました。</p> <p>1 子どもが安全・安心に過ごせる居場所づくりを行うこと 地域の子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所を作るため、次の3点を基本として活動を行いました。</p> <p>(1) いつでも仲間のいる、安心できる環境</p>

子どもにとって、「そこに行けば仲間がいる」という安心感を与えられる場所とするため、継続した在籍・来室を前提とし、安定した生活環境を確保しました。

(2) 小学校の全期間を通じた保育活動

小学校の全期間を通じた在籍を前提として保育計画を策定・実施しています。それぞれの年齢や性格に応じた役割分担によって、子どもたちは自尊感情を獲得し、また同時に他者を尊重することの大切さを学びます。

(3) 卒室後の継続的なフォローアップ

卒室・小学校卒業以降も、学校・家庭・地域生活において、人間関係のつまずきや居場所が見つからなくなるなどの困難な状況があるときには気軽に立ち寄ることができ、指導員や在室生との関わりのなかで気分転換を図り、元気を取り戻せる環境を作っています。

2 課題を抱える子どもに対する支援を行うこと

課題を抱える子どもたちを支援するため、次のような活動を実施しました。

(1) フードドライブ活動への参加

地域の必要な世帯へ食料品などを届ける活動をしているフードバンク活動に参加し、定期的に保護者及び近隣の方に声をかけて、食品等を集め寄贈しました。

(2) 不適応・不登校等の問題への対応

学校の担任や友人との関係がうまくいかなかったり、学校に馴染めなかったりなど、不登校等の問題を抱える児童やその家庭にも相談に乗ったり、必要に応じて対応できる体制を確保しています。学校とは別の環境を用意することで、子どもは学校でのトラブルにとらわれずに生活することができます。

(3) 学習につまずいた子どもへの支援

学習につまずいた、あるいはそのような傾向がある子どもも勉強に興味を持ち、自信を持つことができるよう、退職教員のボランティアによる学習指導を企画し、希望者に対して定期的な学習支援を行っています。

II. 地域に根付いた学童保育から、共助の地域コミュニティ作りへと発展させるため、次の事業を行いました。

1. 地域と連携した子どもの居場所づくりを行うこと

地域と連携し、地域に対して愛着を持つ子どもを育成するために、次のような活動を実施しています。

(1) こども文化センターの活動への参画

地域の子育ての拠点である「野川こども文化センター」の運営協議会に参加し、主催行事への積極的な参画や地域の子育て団体との協力を通じてこども文化センターの活動を盛り上げ、子育ての拠点としての活動に協力しています。

(2) 地域との関わりの強化

青少年指導員及び地域の小学校のPTAの関係者に、事業運営への参画を依頼し、本事業の運営委員会のオブザーバーとして助言をいただく体制を構築しています。運営委員会や行事への参加を頂き、活動についても、より具体的な助言を頂いています。今後も引き続き助言を頂きながら、地域との関わりを強化していきます。

(3) 地域の子どもたちの日常活動への受け入れ

自主学童保育は、密な保育・指導を行うため、あらかじめ登録した会員に対して保育を提供しています。ただし、地域での活動が主となることから、地域の子どもたちに対してもオープンな活動を行っており、地域の子どもたちを日常活動の中に受け入れてきました。

日常の遊びの他、各種行事についても、地域の子どもたちとともに大勢で遊び、楽しめるような居場所づくりを行っています。

(4) 地域における子どもの文化活動の発信

長年積み重ねてきた学童保育での文化活動、関わりを持ってきた地域人材、多様な保護者の協力を得て、子どもたちが興味を広げられるような文化活動を行ってきました。これらの文化活動については、地域の子どもたちにも参加の門戸を開き、様々な経験ができるよう活動を行っています。

(5) 世代間交流の推進

野川老人いこいの家や近隣老人福祉施設との交流会を毎年度実施する他、近隣の保育園との交流など、地域の世代間交流を推進する取り組みを行っています。

(6) 地域人材の活躍・育成の場の提供

学習支援の必要な子どものための勉強会を企画し、退職教員をボランティアとして受け入れています。また、卒業生に対しても日常活動や各種行事への参加を受け入れており、在室生やその保護者との関わり通じて、地域の社会活動への窓口の役割も果たしています。

実施内容・実施スケジュール

1. 地域に根差した学童保育づくり

それぞれの事業内容の具体的な内容は次のとおりです。

(1) 子どもが安全・安心に過ごせる居場所づくり

子どもにとって安定した放課後の生活環境を確保するため、事業の実施拠点「ささのはの家」(川崎市宮前区西野川3-17-41)を借り上げ、放課後を思い思いに、かつ安全・安心に過ごせる場所として整備しています。在籍児童は直近5年間の平均で40名前後と増加していて、1年生から6年生までが平均した人数構成で在籍することで、異年齢の子どもたちとの交流が常に行われています。

4月～6月中旬の学校閉校中も、保護者の就労と子ども達の生活の場を守るため、朝から開室しました。コロナ禍での実施に当たっては、安全を守り感染予防を徹底するため「新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」を最新のエビデンスに基づいて作成し、徹底しています。(令和3年1月に感染状況に応じて改訂)

(2) 課題を抱える子どもへの支援

ア フードドライブ活動への参加



前年度初めての取り組みでしたが、コロナ禍での困

窮家庭が増えている中で7月,10月,2月の3回、保護者だけでなく地域の交流団体にも声をかけて取り組み、多くの食品の提供があり成果が上げられました。集まった食品はこどもも協力して仕分けするなどし、フードドライブ活動を知らせることができました。

イ 不適応・不登校などの問題への対応

クラスや学校での人間関係等による場合の他、コロナによる学校長期閉校後の、不安・不適応によって不登校となってしまった子どももいましたが、「複数校の児童が在籍」「1年生から6年生まで各学年の児童が在籍」という環境であること、オープンな場所、日々一緒に過ごしてきた親しみのある人間関係などにより、不安感を払拭し再び元の生活を取り戻すことができました。

ウ 学習につまずいた子への支援

学校での学習について課題を抱える子どもに対しては、勉強に対する興味や自信を持つことができるよう、元小学校教諭の学習指導ボランティアにより、週2回の定期的な学習指導を実施しています。学校閉校時の4月以降は、新1年も含めて、未習の課題が学校から出され、不安が大きかったため、毎日の朝の学習時間を1時間40分(2時間分)にして、ボランティアに毎日来てもらい個別に対応してもらいました。

II. 地域に根付いた学童保育から、共助の地域コミュニティ作りへと発展させるため、次の事業を行いました。

(1) 地域と連携した子どもの居場所づくり

ア こども文化センターの運営への参画

地域の子どもの活動拠点である野川こども文化センターの運営協議会に役員として参加しています。

前年は、庭のプレイパークの工事期間が長期に渡ったことに加え、コロナ禍によって年間を通して運営協議会主催のすべての行事が中止になったため、地域の子ども達が集まっての活動はできませんでした。しかし、運営協議会の役員会を開き地域団体同士で継続して連絡を取り、お互いの活動状況を報告し、それぞれの活動が孤立

しないで維持できるように連携を取ってきました。

イ 地域との関わりの強化

地域との関わりをより強めるため、地域の青少年指導員及びPTA関係者に、オブザーバーとして運営への参画を頂いて具体的な助言をもらっています。

ウ 地域の子どもたちの日常活動への受け入れ

昨年は、3密の状況にならないように例年のような地域のこども達を積極的に受け入れての活動はなかなかできませんでした。その中で、近隣の公園で遊んでいる時に、鬼ごっこやボール遊び、虫取りなどを一緒にすることで、こども同士での交流を行い、また異年齢・他校の子どもも含めた大勢での遊び・活動の楽しさを子どもたちに感じてもらって、こども同士の交流を図り、地域ぐるみでの子育てにつながっています。

エ 地域における子どもの文化活動の発信

子どもたちが自ら演じる「こども劇場」を密にならない広い会場の宮前市民館で実施し、地域の子どもたちも誘って、安心できる環境で、本事業で保育する子どもたちと地域の子どもたちとの交流を図りました。

オ 世代間交流の推進

今年は、直接対面での交流は難しかったため、地域での世代間交流として、「野川老人いこいの家」と地域にある老人ホームの「寿楽園」に敬老の日に、こども自身のメッセージを添えた手作りのプレゼントを個別包装して渡し、交流を行いました。(いこいの家ニュース)

敬老の日



9月18日、学童保育ささのはクラブの指導員の方より、こどもたちが作った「しぼり染めのティッシュケース」をいただきました。

敬老の日以降、利用者さんにお配りしたところ、色がきれい、上手にできていてびっくり、など皆さん喜んでいらっしゃいました。



カ 地域人材の活躍・育成の場の提供

地域人材が活躍する場として、地域の退職教員に協力

	<p>して頂いています。</p> <p>また、卒室した子どもたちとの直接の交流の機会は持てませんでしたが、メールや手紙などで近況報告などのメッセージ交換を行いました。内容を保護者にも報告することで、在室生・卒室生・保護者の繋がりを維持しながら、卒室生を地域人材として育成していき、大人になってから地域で活動できる窓口の役割を果たしていけるよう取り組んでいます。</p>		
参加者の年代	<p>日常的には： 小学校 1～6 年</p> <p>地域との交流： 小学生を中心に幼児～お年寄りまで</p>	<p>定員 (1 回あたり)</p>	<p>日常的には： 小学生 36 人</p> <p>地域との交流： 取り組みにより 40 人から 100 人</p>
実施頻度	<p>日・祝祭日・年末年始を除く毎日</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>272 日</p>
スタッフ体制	<p>指導員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在常勤指導員 3 名 ・非常勤 2 名 (交代勤務) <p>保護者会、運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業には保護者会、運営委員会が全面的に協力 <p>OB 会他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業した中学生～成人の OB とその保護者及び関係者が様々な場面でボランティア参加 		
連携する団体・連携の手法	<p>連携する団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野川地域の子育て団体及び青少年指導員など ・野川地域の小学校・中学校 PTA、地域教育会議 ・老人いこいの家・老人福祉施設・近隣保育園幼稚園 <p>連携の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年指導員, 野川小学校 PTA 元会長 (地域教育会議委員) に、運営委員会のオブザーバーになってもらい地域との連携方法などの助言を頂いている。 ・野川こども文化センター運営協議会に関わり、野川地域の子育て団体と連携を取り、運営協議会行事に全員参加で積極的に関わる。 ・地域の子育て団体との交流を通して、地域のこどもの遊ぶ環境について話し合ったり、子育ての相談機能作りも検討してい 		

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人いこいの家・老人福祉施設・近隣保育園幼稚園との交流会などで、世代間交流を行う。
<p>取組実施により見込まれた効果</p>	<p>本学童保育事業は、「子どもが安全・安心に過ごせる居場所づくり」及び「課題を抱える子どもへの支援」を基本的な目的として、平成 15 年から継続して実施しています。発足から現在に至るまで、「地域と連携した子どもの居場所づくり」を行い、地域に根差した子育ての拠点として延べ 500 名以上の小学生の保育を実施してきました。平成 28 年度からは、地域の関係者に運営委員会への参画をいただくなど、地域との連携をより強化しています。</p> <p>地域に積極的に関わる事で、自主学童保育運営に伴う、地域のこどもと大人のコミュニティの基盤作りを地域の中で生かしていき、困難を抱える地域のこども達を援助できる体制も作っていきたいと考えます。本事業を今後も安定的に継続することで、次のような効果が見込まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域に愛着を持つ子どもの育成 2 公助によらない子育てのセーフティネット 3 子育てに関する共助の場の確保 4 地域人材の育成と活躍の機会の提供